

1. 輸出における現状と課題

【現状】

岡山県備中エリア南部の3地区(笠岡市広浜地区、倉敷市真備地区、総社市新本地区)は、ぶどう栽培の伝統と技術力で知られる一方、高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増加している。

このため、協議会では産地崩壊を防ぎ、若い農業者が活躍できる環境を整えるため、作付面積の拡大、収穫量の向上、人気品種への改植農業経営の強化を図るとともに成長する海外市場への輸出を推進し、地域関係者が連携した輸出産地の形成に取り組むこととした。

【課題】

■輸出に必要な生産量の確保

継続的な輸出を実現するためには、生産量を確保する必要があるが、そのためには輸出に取り組む農家数の拡大を図り、農地の確保、作付面積の拡大を進める必要がある。

■作業効率向上、栽培コスト削減、人手の不足の解消

ぶどう栽培は摘果や袋掛け、剪定枝処理作業など手間がかかる作業が多い。また、高齢化や後継者不足により労働力の確保が困難となっている。

■台湾の残留農薬基準に対応した防除暦作成と薬剤防除

台湾へぶどうを輸出するためには、残留農薬基準に対応した防除暦作成と薬剤防除が必要となる。

■台湾のニーズに対応したぶどう加工品の開発

加工品は生果に比べて賞味期限が長く、販売の強みである中、贈答需要にも対応できる商品として現地消費者のニーズに適合するぶどうジュースやゼリーの新商品の開発が必要である。

■鮮度保持、輸送コストの削減

ぶどうを高付加価値商品として販売するためには、より高い鮮度の保持が重要である。また、輸出を継続的なものとするためには、流通コストを削減し、収益性を確保する必要がある。

■新規需要の発掘と販路開拓

ぶどう・ぶどう加工品の輸出事業を進めるに当たり、現地消費者のニーズに即した商品展開と販路開拓を行う必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

■輸出に必要な生産量の確保

- ・本協議会の取組趣旨の広報活動と参加の呼びかけを行い、農家数を拡大、生産量を確保する。
- ・耕作放棄地の再生、廃業園地の借り入れを行い、露地栽培に耐えられる品種、脱落しにくい品種への転換を行い、長期輸送リスクに対応する。付加価値の高い品種の新植を行い、輸出向け栽培面積の拡大を行う。
- ・堆肥発酵促進剤をぶどうの株元に入れて、土壌に有用な微生物を増殖・活性化させ、生育促進、免疫性の向上をさせることにより、収量の向上を図る。

■作業効率向上、栽培コスト削減、人手不足の解消

- ・作業効率の向上を図るため、省力かつ早期成園が期待できる栽培樹形（根域制限栽培）を導入し、露地栽培かつ豊産性の高い品種を新植する。
- ・ウッドチップを導入することにより、従来、剪定後の焼却処分にかけていた作業を1/2程度に省力化する。
なお、ウッドチップは酪農家に牛舎敷料として販売し、畜産農家はこれを堆肥化してぶどう農家に堆肥として販売する循環体系を実現する。

■台湾の残留農薬基準に対応した防除暦作成と薬剤防除

- ・台湾への輸出経験を有する協議会の参画事業者の指導のもとで防除暦を作成し、産地の生産者に共有することで、台湾の残留農薬基準に対応した防除への取組を推進する。

■台湾のニーズに対応したぶどう加工品の開発

- ・現地のバイヤーやコンサルタントと連携し、台湾の消費者の嗜好に合った高付加価値の加工品の開発を行う。

■鮮度保持、輸送コストの削減

- ・地元の流通業者との提携による輸出物流の構築をする。
- ・ぶどう加工品（ジュース）については、現地でボトルへの充填を行うことで輸送効率を向上させる。

■新規需要の発掘と販路開拓

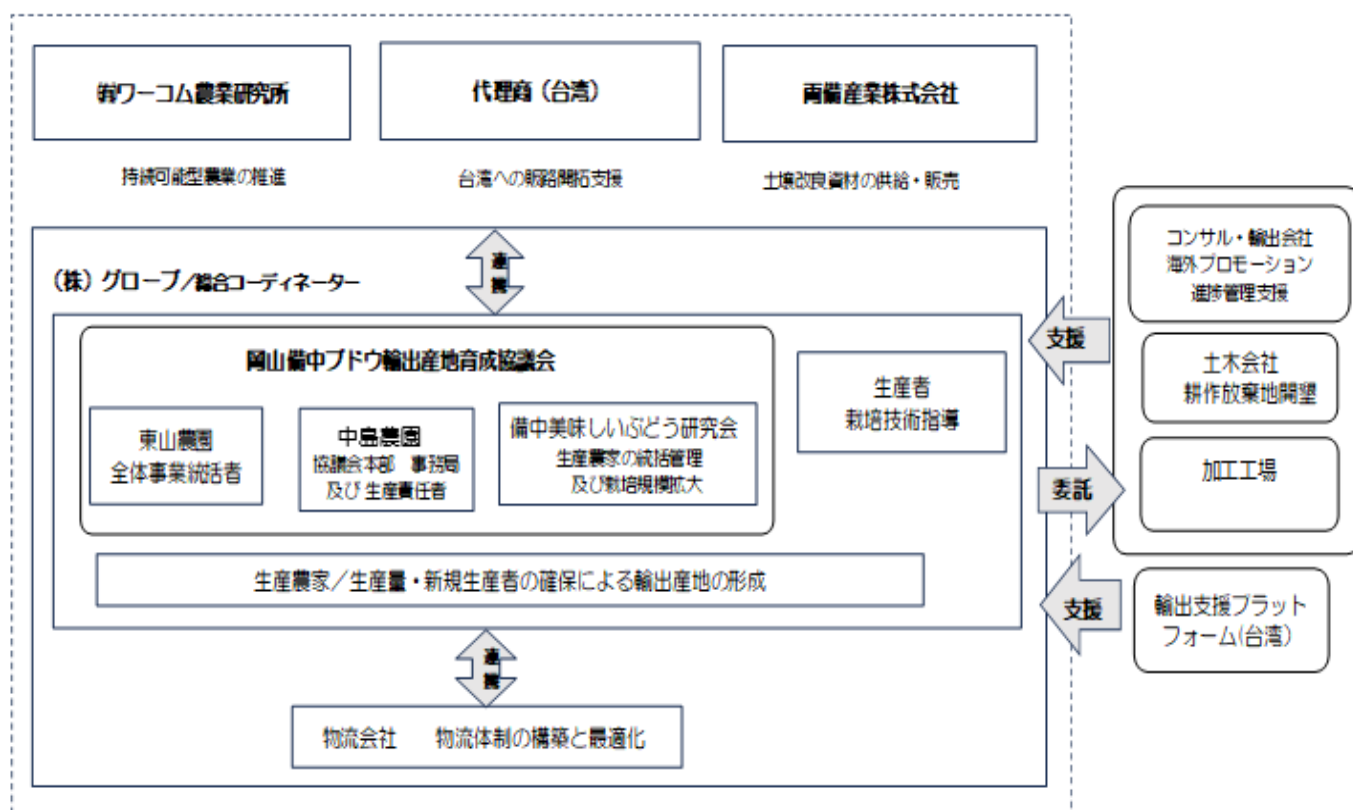
- ・台湾でのテスト販売を通じて、現地消費者の反応や購買動向を把握し、需要に即した商品展開を検討する。
- ・台湾輸出支援プラットフォームを活用したプロモーションを実施する。

輸出事業計画

※申請者名：岡山備中ブドウ輸出産地育成協議会

品目：ぶどう、ぶどう加工品

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

品 目		現状（令和5年度）	目標年（令和7年度）
ぶどう	輸出額(千円)	-	3,000
	輸出量（kg）	-	1,500
	輸出先国	-	台湾
品 目		現状（令和5年度）	目標年（令和7年度）
ぶどう加工品	輸出額(千円)	-	7,000
	輸出量（kg）	-	3,500
	輸出先国	-	台湾